

はじめに

西緑地は1931年（S6年）京都大学が旧徳山町より町有保安林の寄付を受け名称「京都大学農学部附属演習林徳山試験地」を大迫田に「徳山砂防演習地」として開設したのが始まりであり1942年（S17年）海軍工廠の地下貯油タンク建設のため東山へ移転、「徳山試験地」と改められた。その後、1966年（S41年）周南団地建設用地問題に関連し緑地公園に転換。演習林は代替地である鉢窪に再移転、その後の「フィールド科学教育研究センター」として現在に至っている。

西緑地は長いあいだ京都大学農学部の演習林であった丘陵地（標高65m）が主体となっているため、国外・国内の各地から移植された貴重な樹木が成長しており、全体として植物園を兼ねた自然公園的な緑地である。

特に西側一帯の山林は、演習林としての樹木見本園であり、谷筋には水に強いトチノキ、ラクウショウ、サワグルミ、ブラジルマツ、スイショウ、カツラノキ 等。水辺には石鱈の代わりになるムクロジ、サイカチ、ナンキンハゼ。尾根には禿山（真砂山）だったため母材の花崗岩が風化した真砂土でも良く育ち、空気中の窒素を肥料として固定化し得る機能を持つハンノキ、ヤシャブシ、ヤマモモ など樹木、本来の持つ特徴を生かした配置がなされ、遊歩道周辺を中心に約900種類にのぼる樹木が生育している。

下表に示した公園内の代表的な樹木約250種の特徴、木の謂れなどは 西緑地公園樹木観察会 における「樹木医 山本雅夫先生」の説明を主体に記述した。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
あ	アオキ	D	アオキ科	（青木） 日陰でも育つので重宝（逆に日当たりが強いと葉が黒くなる）。雌雄異株、赤い実（雄株、雌株が必要）。幼木時、木肌が青い事からアオキと云う。
	アオギリ	H	アオイ科	（青桐） 木肌は青色、成木では灰白色、実はコーヒーの代用。3大実幹樹の一つ（青：アオギリ、白：白樺、赤系：ヒメシャラ）。屋久島の群生は径1mの物がある。葉は20～30cmと大きく3～5つに大きく切れ込む。鹿児島では柏の代用に使う。実（袋果）は割れ笹船の様に反り返り、果皮の縁には数個の種子がつき風で飛ぶ。（中国では鳳凰がとまると云い 縁起木）
	アオダモ	C	モクセイ科	（青だも）（別名コバノネリコ） 粘り強く野球バットの材。名は、枝を切り水に漬けると、水が青く成ることに由来する。
	アオハダ	H	モチノキ科	（青膚） 葉が長枝には左右互い違いに、短枝には束になって付く。実は赤い（雌雄異株）。樹皮は薄く爪で剥がれ、青色がでるので青肌となったと云う。
	アカシデ	H	カバノキ科	（赤四手） 木肌は成長につれ、縦方向に太い縞模様が現れる。春、花（穂状）は芽ぶきと共に咲き、若葉も赤なので樹全体が赤っぽく見える。名前の四手は、玉ぐしに付ける紙飾りの事。穂状の実が連なる様子が似ている事に由来。盆栽愛好家はソロノキと呼んでいる。
	アカマツ	L	マツ科	（赤松） 山口県の木、クロマツと並び日本を代表するマツ。特徴は樹皮と新芽が赤褐色、葉は2針で断面は半円形。
	アカメガシワ	O	トウダイグサ科	（赤芽櫛） 樹皮は縦に筋模様、成長とともに細長い網目模様となる。葉は手のひら様、上部は小さく、下部は大きく葉柄は赤く長い。これらは、陽に多く当たる為の工夫である。若葉が赤みを帯びるのが名の由来。空き地などに先駆的に生えるハイオニアブラツの一つ。樹皮は將軍木皮と呼んで胃薬にする。
	アキグミ	L	グミ科	（秋葉萸） 秋に赤い実を付る。渋いので果実酒に用いる。
	アキニレ	D	ニレ科	（秋楡） 秋、その年に伸びた枝の付け根に花が束になって咲く。花（黄色 開花期9月）と紅葉 が同時期。（11月結実） 葉は小型で左右非対称。ニレ（ハルニレ）の葉は、菱形に近く左右対称にならず、縁は大小二重になったぎざぎざが特徴。
	アサマツゲ	N	モチノキ科	（朝熊黄楊） ツゲ（黄楊）の一種。伊勢の朝熊山（アサマヤマ）に産出するからという。
	アシュウスギ	J	ヒノキ科	（芦生杉） 裏杉（日本海側）の代表。キタヤマスギはアシュウスギを改良したもの。滋賀・福井・京都の三角点の雪深い地に生育。杉、檜は日本の固有種。伝説ヤマタノオロチの背中に生えていた2本の樹は杉と檜であったと云う。
	アジサイ	C	アジサイ科	花の咲き方は「額咲き」と「手まり咲き」の二種。「手まり咲き」は、飾り花（雄しべ、雌しべはあれど種を作る機能がない）が手まりの様に集まる園芸品種なので挿し木で増やす。「額咲き」は飾り花が取り囲んだ中心に本物の花「両性花」があり種をつくる。アジサイの葉には青酸系の物質が含まれる事が知られている。食中毒に要注意。
	アズマネザサ		イネ科	笹の代表格 3m位まで成長する。
	アセビ	D	ツツジ科	（馬酔木） 春、枝先に多数の釣りがね形の小花を垂らすように咲く。葉にアセボトキシン（毒）があり、食べた馬が酔ったようになる事から名がついた。
	アゾラ・クリスタータ		不明	水面を覆う根が水中にあり、繁殖力が旺盛で生態系を壊す害草外来種（ホテイアオイも同じ）。南北アメリカ、欧州に分布、アイモ農法と共に渡来の説あり。周南では、平成6年の秋、万葉の池で見つける。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
	アブラキリ	B	トウダイグサ科	(油桐) 葉柄のセン点(蜜腺様)が緑(大)、オオアブラキリは赤(小)。古く中国から入る。種子から搾った桐油(トウ)は工業用で食用にならない。材は山桐と称し器具、下駄に。オオアブラキリに比べ、花は小さく中心が黄(オオアブラキリは紫系)。開花は約ひと月遅い(5月下旬)。実の中は3房(シナは4~5房)。
	アブラチャン	C	クスノキ科	(油漚青) むかし、果実から灯火(トモビ)用の油を採取。多量の油脂分を含み、葉は先端が鋭く尖る。花は葉芽が広がる前に枝全体に咲く。実は緑の球形、晩秋には黄褐色になり割れる。西緑地では3月中旬に黄色の小さな花が咲く。雪国ではガンジキに使用(曲げ、油による雪付着防止)。
	アベマキ	G	ブナ科	(楢) コルク層が発達しゴツゴツした樹皮でコルクがとれる。葉は葉脈が左右対称、縁は針の様に尖る。
	アメリカキササゲ	A	ノウゼンカヅラ科	(一)紫点のある白い花。実はキササゲ豆様の細長い莢状となり垂下する。葉はスペード様の形で煎じて皮膚病に。実は利尿剤、樹皮は解熱剤になる。
	アメリカスズカケノキ	C	スズカケノキ科	(一)アメリカ原産。明治時代に渡来。プラタナスは学名でスズカケの総称。三種類の木があり、葉の切れ込みと、ぶら下がる実の数で見分ける。東ヨーロッパ原産は、切れ込みが深く実は3~6個。アメリカスズカケノキはアメリカ原産で、切れ込みは浅く実は1~2個(1個が多い)。その、二つが交雑したモミジバスズカケノキは実が1~4個(2個が多い)。
	アラカシ	A	ブナ科	(粗榧) 関西地方で多く見られる榧の木。葉は5~13cmで堅く厚みがある。団栗は1.5~2cm細長い。葉の半分から上に鋸歯がある。
	アリアケ	J	バラ科	(有明) 古くからある桜。水上勉の小説「桜守」に出てくる。「有明は八重なり、拾顔齋の櫻品に単弁にして白色大輪形 また、重弁は是即ち江戸の種類あかく光ありて有明かたの月の色によそへて名とある由」
	アワブキ	A	アワブキ科	(泡吹) 燃やすと切り口から盛んに泡を吹き出す様由来。山野に自生するが数の少ない樹。
い	イスノキ	F	マンサク科	(柞)(別名ヒヨノキ) 赤みのある葯の付いた花が咲き、葉に様々な形の虫こぶが特徴((タンニンを含み染料、オカリナ様で笛になる)。材も赤みを帯びる。葯とは、雄しべの先に在り中に花粉を生じる袋状の部分。
	イソノキ	J	クロウメモドキ科	互生2出(葉の付き方が同方向に二つずつでる) 蕾から白い花(5月下旬)が咲き7月上旬には赤い実が付く。蕾から結実が短期間で移行する。
	イチイガシ	H	ブナ科	(石榧) 常葉高木。葉の先端は急に尖り、葉裏は黄褐色の短毛で被われる。実は大型で食用になる(味はシイに似る)。材は強靱で鋤鍬の柄等に用いる。葉の上半分は重鋸歯でスタジイ、ツブラジイより重厚。
	イチョウ	A	イチョウ科	(公孫樹) 雌雄異株。現存する樹は一科一属一種。平安時代中国から入る。公孫樹とは、祖父の代が植え、孫の代にようやく実を付ける木と云う意味。ギンナンの臭いは外種皮に含まれる酪酸。オハツキ銀杏は葉に実がつく。ラッパ銀杏は葉がラッパ状になる(市中央図書館前、山銀前)。2億年前(中生代2億5000万年~6500万年)に全盛期、各地で化石出土。葉脈は途中で二股分枝する中世代植物の特徴を持つ。樹皮はコルク層で葉も厚く水分を多く含む。関東大震災の耐火性の実証された。その後、神社、街路樹等の防火樹に多用される。紅葉は葉にクロロフィル(緑の色素)とカロテノイド(黄の色素)双方があり、秋に離層形成後、クロロフィルが衰退し、黄色が目立つ様になる。雌木の県内最大木は徳山興元寺。雄木(?)の県内最大木は徳地妙見寺、根回り8.85mに達する樹。共に乳根を持つ。
	イヌガヤ	B	イチイ科	電気がない時代に、果実から採取した油は灯火として用いた。前年に付いた緑の実は翌年の秋、赤茶色に熟して落ちる。
	イヌザンショウ	L	ミカン科	(犬山椒) サンショウに似るが、花の数が多く花弁を持つ(サンショウは花弁なしガクのみ)。香りが弱い。落葉広葉低木。葉は互生で縁は滑らか。サンショウは樹に近づくと強い香辛料の臭い。葉は対生で縁のギザギザは浅く切れ込みを入れた様にくぼむのが特徴。枝には対生の棘が有る(イヌは互生)。
	イヌシデ	J	カバノキ科	(犬四手) シイタケ栽培の「ほだ木」の原木にも使う。アカシデとよく似た樹皮をしているが長い網目状の模様のはっきりしている。葉は葉先が尖り、縁は鋭い細かな鋸歯が並ぶ。雄花は黄褐色で5~8cm穂状に垂れさがり、神社等で見る四手に似ている。
	イヌビワ	J	クワ科	(犬枇杷) 名はビワでもイチジクの仲間。雌花が熟した実(黒紫色)は食用。(雄花からの実は黒紫色にならず食べられない)イチジク属の最大の特徴は袋の様な物(花のう)の中に花が咲くこと。一見、実に見える物が花でコバチの仲間が穴から入り受粉を助ける。イヌビワコバチは雄花のみに産卵。越冬後、羽化したイヌビワコバチは産卵のため新しい雄花を探し回る。この際、雌花は受粉でき子孫を残せる。両者は give and take の関係にあり、個々ではなくセットで扱うべき生物である。イヌビワは日陰でも葉が重なり合わないよう、葉柄の長さ、葉の大きさを工夫し、効率的に光合成を行い生育する。
				花のうとは、イチジクの実と思っている部位。袋の内側に小さい花(ブツブツした部位)が沢山咲き、袋の中で実が熟す。(イチジクは漢字は「無花果」と書く) 苺、梨、林檎は花托(カク)の部分に変化した部位を食べている。花托とは、花茎の天辺にあり雌しべ、雄しべ、花弁を支える台座の役目。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				<p>莓の実には表面に付いたツブツブ(子房が変化。) 梨、林檎の実には食べる時に捨てる芯の部分。</p> <p>子房以外が大きくなる果物を偽果(ギガ)。葡萄、柿など子房が大きくなり実となる果物を真果(シカ)と云う。</p> <p>イチジクはザクロ、ブドウと並び世界的に最も古い果樹の一つ。</p>
	イヌマキ	B	マキ科	(犬槨) 生垣、防風林として植える。 真っ赤な花床(花托 カタク)の上に白色(緑)の種子が串刺し団子の様に付く。
	イペー	P	ノウゼンカズラ科	5月初旬のころ、黄色の花をつける。(ブラジルの国花 周南市は姉妹都市サンペナルド・ド・カンボ市より種子を贈与される)
	イロハモミジ	D	ムクロジ科	(以呂波広葉) 一般的に、この木をモミジと云う。雌雄同種。竹トンボの様な2枚の翼のある実が葉の上側に付く。(ノムラモミジは葉の下側)
う	ウツギ	D	アジサイ科	(別名 卯の花) 唱歌「夏は来ぬ」でお馴染み。
	ウバメガシ	J	ブナ科	(姥目樫) 最も堅い木、備長炭の原料。庭木では生垣、段物に利用。 花は雄花が房状、雌花は葉の脇に目立たない姿で付く。(雌雄同株)
	ウバユリ		ユリ科	(姥百合) 6~8年で花が付き、鱗茎(リンケイ)(二世)を地面に残し枯れる(カタクリも同じ)。 花が咲き始めると葉(歯)が落ちる事が姥に例えられた。
	ウメ	A	バラ科	(梅) 中国中部原産。和歌山県の南高梅は全国で漬物生産高一位。バイオ技術を用い実が紫色のパープルクイーンを開発。( H20和歌山)
	ウメモドキ	B	モチノキ科	(梅擬) 雄花は雄しべと退化した雌しべ。雌花は発達した雌しべが目立つが4mm程度と小さい。 実には赤く径5mm程度、落葉しても実が残る。
	ウラジロガシ	E	ブナ科	(裏白樫) 葉の裏側が粉をふいた様に白みを帯びているのが特徴。 葉は中心を通る主脈が凹み、縁は鋭く尖るギザギザがある。 実には楕円形。殻斗には6~7個の輪があり横縞模様に見える(毛が生えている)。 秋に実がなり翌年、熟す。
	ウラジロノキ	A	バラ科	葉の裏が白い。 ナナカマドの仲間(落葉樹)。
	ウリハダカエデ	E	ムクロジ科	(瓜膚楓) 樹皮が暗緑色でマクワ瓜の実に似る。 葉は五角形で大きい。 花は葉が出ると同時に咲き、黄緑色の小さな花が細長い房になる。雌雄異株。秋、2枚の翼が有る実(イロハモミジと同じ)が熟し房状に連なる。紅葉も楽しめる。
	ウワミズザクラ	B	バラ科	(上溝桜) 桜の仲間。ブラシの様な房状の花が咲く。 ルビー色の実(熊の餌、ほのかな甘みがある)。 桜の原種(サクラ亜科)の一つ。花穂、幼果の塩漬は杏仁香といい、茶うけにする。
え	エゴノキ	I	エゴノキ科	(野茉莉) ゲラン(実)はエゴサポニンが成分。えぐい事から付いた名。 毒性があり口にしない。 鳥ではヤマガラしか餌にしない(分解能あり)。花は下向きに長い花茎の先端に咲く(白)。芳香性があり蜂が集まる。 材は白く細工が容易で番笏の軸、大内塗に使用する。
	エノキ	A	アサ科	(榎) 樹皮に成長とともに目盛の様な横線が入る。葉の上部半分に鋸歯がある(アラカシと同じ)。形は左右非対称。着果枝。 神の宿る木とし縁起木。餅つき用の臼。 大木になり寺社に多く、かつては旅人の目印とし一里塚に植えた。葉は国蝶オオムラサキの幼虫の餌。
	エンジュ	A	マメ科	(龍爪樹、槐) 原産地中国では立身出世の縁起木。韓国では高貴な人が亡くなると墓に植える。西緑地東山側入口に植生。葉は奇数羽状複葉、小葉は卵型で対生、葉裏は淡緑色で綿毛が生える。 小葉の一枚は楕円形で先端は尖る(ハリエンジュはくぼむ)。花は小さな蝶の様な形。 実にはユニーク(龍の爪の様)、サヤに入った種子が膨らみ、ポコポコして数珠状に連なる。 熟しても開かない。
				複葉とは、一枚の葉が複数の部分に分かれている。構成する一単位が小葉。
				葉の付け根に芽があるのが単葉。小葉の付け根には芽がないので単葉か複葉かの区別がつく。
お	オオアブラギリ	B	トウダイグサ科	(旧名 シナアブラギリ) 葉柄のセン点(蜜腺様)は赤く小さい。花はアブラギリより約1カ月早く咲く。実には柿の実の如く大きい。
	オオガハス	A	ハス科	(大賀蓮) 古代縄文時代の蓮。千葉県検見川遺跡地下6mの泥炭層から、大賀一郎教授(東大)により種子が発見された(S26年)。実際に発芽した種子は発見された3粒のうち、発掘作業に携わった当時の地元の中学生 西野真理子さんに依る一粒のみであり、シカゴ大学での年代測定鑑定分析の結果、2千年前の蓮の実であることが判明した。翌 S27年7月にピンク色の花が咲き、ここに古代ハスが蘇った。その後、古代ハスとし、国内を始め広く世界へ株分けされた。ここ、周南の万葉の池には S51年5月 博士の郷里 岡山から譲り受けた約2000株が植えられた。花は7月上旬から8月中旬まで、日の出と共に3時間を要し開花する。食用にはすじっぽく向かない様子。 奥州中尊寺の蓮は、藤原氏の被服の中から見つかり、約800年後に再生される。ピンク色が強い。
				蓮は仏教と関わりが深い。最後にはどんなことが有っても(泥土)清浄な花を咲かす。「蜂巣の糸」とは蓮の根の中にある糸の事で極楽往生の縁を結ぶと云う。 泥中の蓮(でいちゅうのはす)とは「悪い環境にいても染まることなく、清らかさを保つ事の例え」

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				カンレンエ（観蓮会）中国西湖発祥。蓮の葉の茎部分にかんざしで穴をあけ酒を飲む遊び。像鼻杯暑気払いの行事。 蓮茶は花の香りを御茶に移したもの。（花の中へ紙に包んだお茶を二日間入れ花の香りをお茶に移す。エッセンシャルオイル）ハスはハチス（蓮は蜂の巣の様）
				植物は光合成ができるまでは種子の脂肪分で成長する。ヤナギ・ポプラの種は3週間経過後は発芽しない。団栗は1年以内なら発芽（乾燥地では発芽しない） はずの葉からレインコート（葉の表面に小さな毛）、オナモミからマジックテープ等 植物の持つ特性から日用品が開発された。
	オオシマザクラ	J	バラ科	（大島桜）山桜系。花は白く大。葉は大きく先が尖り葉裏に毛がない。オオシマザクラとエドヒガンとの交配種がソメイヨシノ。桜の原種の一つ。 桜餅の葉（色、香り、味が良い。これはクマリンの作用で、生の葉には無く、塩付けにより酵素が働き生成する。（塩付けのさい緑が抜けない） 伊豆地方で国内の75%を生産している。オオシマザクラを台木に接ぎ木で増やす。現在はマサクラを台木とする。
	オオチョウチン	A	バラ科	花弁は5～7枚。花は大きく薄いピンク（八重桜）。桜は枝により花弁の数が違う事が良くある。 里桜とあるのは八重咲きの総称のこと。正式名が不明な場合の便宜的な呼び名。
	オオバヤシャブシ	L	カバノキ科	ヤシャブシと同じく葉脈は12～17。葉は大きく、実の一つ。（ヤシャブシは複数個）
	オオムラサキシキブ	B	シソ科	
	オガタマノキ	E	モクレン科	（招霊の木）古くから「神道」に縁の深い木。神社の境内に植栽され、各地で巨木が残される。枝葉を神前に供え、霊を招く（招霊）のに用いられた。 花は径が約3cm良い香り。葉の脇に1つずつつく。花弁とガクは共に白で付け根近くは紅紫を帯びている。 10月に熟す実は、数個の種子が集まる集合果（葡萄の房の様）。モクレン科の葉は基本、太陽に向き、山中での方位の確認に用いられる。
	オカメザサ	F	イネ科	（お亀笹）日本で最小の竹（分類上は竹に属す）。浅草西の市で、オカメをつけて販売していたのでこの名がある。 笹（皮が残り、枝は何本も出る）。竹（皮が剥げる枝2本）。パンブウも竹、笹と同じ仲間なのに地下茎がなく株立ちになる。
	（オーストリア松）			松笠に特徴。最小（1cmΦ×2cm）。（世界で一番大きいのはパインス コルテリイ 重さ2kgに達する モクマオウの一種）。
か	カイヅカイブキ	L	ヒノキ科	葉の付き方は、燃えたぎる炎の様で特徴がある。落葉からナシの収穫量を落とす赤星病菌がつくので、ナシ園の近くには植えない。
	カキノキ	E	カキノキ科	材は黒く、堅く、緻密なので家具等に。アメリカガキの材はパーシモンと呼ばれゴルフ用具に。甘柿渋柿など種類が多い。渋柿は「渋抜き」を行い食用に。 「渋抜き」とは、渋柿の呼吸を人為的に止め、アセトアルデヒドを発生。果肉、果汁中の渋み成分タンニンと作用。不溶化する事で食しても渋みを感じなくする。 具体的には、湯抜き（渋柿をお湯に漬ける）。渋柿のヘタをアルコールに浸した後、ビニール袋に入れ密封する。炭酸ガス（ドライアイス）を充填させた袋に 渋柿を入れ密封する。干し柿は皮を剥き、干す事により果肉の表面が厚くなり、空気を遮断する。などの方法がある。アセトアルデヒドは二日酔いの起因物質。
	カクレミノ	K	ウコギ科	（隠蓑）葉に光沢があり縁が3～5つに裂けるのが一般的。老木では葉の切れ込みが無くなる。葉を付けるとミノ様になり身を隠す事に由来する名。 樹脂を家具などの塗料に用いる。 天神様のお使いウソ（鳥：幸せを運ぶ鳥）は、カクレミノ又はハゼノキで作る。 ウソカエ神事（節分）参詣人が木製のウソを互いに交換し、神主から別物を授かる神事。金製のウソを替え当てた人は幸運を得ると云う。
	カジカエデ	F	ムクロジ科	葉がカジノキ（クワ科）の葉に似てる事から名がつく。雌雄異株。同時期に開花しないと受粉しない。県の絶滅危惧種ⅠAに格付けされる。
	カシワ	N	ブナ科	（柏）大きな葉の縁は波打つ。古くは漢字で炊葉（カシハ）と書いたとおり食器代わりに。今日では「かしわ餅」に葉を用いる。葉柄が極端に短い。
	カスミザクラ	A	バラ科	（霞桜）高地に多く、開花は遅い。ヤマザクラより1～2週間遅れて開花（2～3cm白色）。山桜系。桜の原種の一つ。
	カツラ	C	カツラ科	（桂）ハート形の葉が枝に連なる。雄花は多数の雄しべが並び、葯（ヤク）は紅紫色で目立つ。（葯は雄しべの先にある花粉をつくる袋状の部分）。 雌花は3～5の細長い雌しべが付き、花弁、ガクがない2～3cmの小さな花。 秋の落ち葉（黄色）は甘い香りを放つ。（マルトール：醤油、カルメ焼き、綿菓子、みたらし団子等に）。
	カナウツギ	B	バラ科	西緑地のみに存在。低木で葉は互生5～11cmで広卵形。葉先は鋭く尖り粗く、不規則なギザギザがある重鋸歯。
	カナクギノキ	F	クスノキ科	（金釘の木）枝の先端に葉が集まり、その付け根に花が咲く姿がユニーク。また、材は釘が立たない程堅い。
	カナメモチ	G	バラ科	（要鵜）生垣に利用。葉は光沢があり通常は緑色。春の新芽の赤色と、秋の落葉前の紅葉は株全体が燃え立つ様な美しい景観をなす。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				春には白花が房状に咲き、秋には黒を帯びた赤紫の実が付く。刈り込むと花が付かない事もある。 レッドロビンはカナメモチとオオカナメモチを交雑した品種。より新葉の赤色が鮮やかで生垣に使う。その昔、材が堅く扇の要に使われた事に名の由来。
	(ガマズミ)		ガマズミ科	(莢蒾) 山野に自生。庭木としても利用される。ガマズミ三兄弟(ガマズミ・コバノガマズミ・ミヤマガマズミ)
	カマツカ	L	バラ科	(鎌柄) 材が堅く丈夫であり、鎌の柄にされた事からこの名がついた。柔軟性にも富み牛の鼻ぐりに利用。樹皮は成長とともに目盛の様な横線が入る。
	(カヤ)		イチイ科	(榿) 榿、将棋盤の最高品は樹令250年以上を用いる。(宮崎県産の高級品800万円以上、木目打ち応え良し)。葉はモミノキ様で対生、光沢があり先は鋭い。実は前年みどり色に結実し、翌年の秋、熟しそのまま落ちる。(イヌガヤは緑色に結実し、翌年赤茶色に熟し落ちる)。かつては、樹皮・枝葉を燻し蚊よけに用いたのが名前の由来。
	カラコギカエデ	N	ムクロジ科	(鹿子木楓) 葉はカエデ類にしては細長くモミジ形が特徴。先端が鋭く尖り、縁は不揃いの鋸歯。花は房状でうすい黄緑色。
	カラスザンショウ	L	ミカン科	(烏山椒) 葉に柑橘系の強い臭い。小葉は6~15cmの長い楕円形、表面に光沢。枝に棘が多く落葉広葉高木(サンショウは落葉広葉低木)。樹皮はデコボコ。陽樹で荒れ地にいち早く生える(パイオニアプランツの一種)
	カラタチ	D	ミカン科	(枳殻) 幹や枝に鋭い棘がある。葉は三つの小葉からなり葉柄に翼がつく。花はへら状の白い花弁が5枚。実は食べられない。
	カリン	F	バラ科	(花梨) 木肌の特徴、模様が面白く幹肌を鑑賞する幹物の一つ。実は生食できない(上下がくぼむ、リンゴを楕円形にした様)。カリン酒は喉、喘息に。「お金を借りん」の響きから商売繁盛の縁起木。材は堅く楽器にも使う。遣唐使により中国より1300年前に日本へ入る。幹に棘が有るものがある。
	カワズザクラ	J	バラ科	(河津桜) 花色は濃く原木は1950年頃、静岡県峰地区で発見された。3月上旬にカンザクラについて咲く。花は少し大き目、花弁5枚、紫紅色。
	カンコノキ	A	コミカンソウ科	(一) 木は堅く印鑑を作る。枝に棘。花は見落とすくらい小さい(7月中旬ごろ)。実はカボチャの形。熟すと裂け朱赤の種子が現れる。
	カンザクラ	H	バラ科	(寒桜) カンヒザクラとヤマザクラの雑種と推定される。防府市向島小学校の「ホウライザクラ」も同種と考えられていたがDNA解析(千葉大大学院)の結果。カンヒザクラとヤマザクラの交雑種で園芸品種の新品種と判明、認定された。花弁5枚、中輪、淡紅色、開花は3月中旬、開花期が長い。
	カンレンボク	L	ヌマミズキ科	(早蓮木) 梅雨時に花芽をつけ、秋、バナナの房様(三角柱、L3cm、Φ3.4mm)に結実。樹皮に癌抑制能。
き	ギオンシダレ	J	バラ科	(祇園枝垂れ) 京都丸山公園にある。濃いピンクで祇園の夜桜に一番似合うと云われる。先代(5代)佐野籐衛門氏が実生で育てたものである。
	キズタ	A	ウコギ科	落葉蔓性木本。吸盤を持つ巻きひげで他物に絡む。葉は掌状3~5枚。初夏、葉腋に淡黄緑色の小花を付け、黒色の液果となる。(菖蒲園傍にΦ=4.0cmの物)
	キブシ	A	キブシ科	(木五倍子) 実はタンニンを含み染料、インクの原料。黄色の花(つり鐘形)が連なって葉が開く前に咲く。川上ダムに多い。江戸時代ヌルデと共に歯黒に使われた。
	キョウチクトウ	N	キョウチクトウ科	(夾竹桃) インド原産。葉は細く革質、3葉の輪生、乳液を含み有毒。夏の花、桃色、白色、八重咲きなど園芸品種もある。葉の形が竹の葉に似ており、ピンクの花がモモの花に似ている事から「二つを合わせ持つ」と云う意味がある「夾」をつけたのが名の由来(夾竹桃)。
	(キララ松)		マツ科	松くい虫に強い松。種を発芽から育種(美称 S56年から研究)。東日本被災地へ3000本送る(全国植樹祭 第63回 H24 阿知須)。
	(キリ)		キリ科	(桐) 日本特産、軽い、湿気に強い(箆笥は湿気で膨張し気密性大、衣類を守る)。水分を吸い耐火性を増すので防火水槽に利用される。
く	クサギ	L	シソ科	(臭木) 枝葉の悪臭(カメムシの様)から臭木という。花は筒形で先端が大きく裂ける(ヒトデの様、白)。実は球形に裂けガクは赤、藍色の実は染料に。実が艶やかなのは、鳥が見つけ易いようコントラストを付け、アピールするため。(二色効果)。
	クスノキ	B	クスノキ科	(楠) 戦時中は樟脳を採る(S37年まで伐採禁止令)。仏像作成(艶、加工しやすい、虫が付かない)。葉の裏に3本の葉脈が目立つ(クスノキ科の特徴)。葉縁は少し波打ち揉むと特有の臭い。周南市の木。徳山銘木は徳山小、遠石神社に。(下関川棚のクスは1本でも森。木の枝が地に降り新しい幹が派生、樹令1千年以上、幹周り11.2m、樹高は27m)。クスノキは主幹から幾つもの幹が発生し直木に育ち難い。4~6月ごろ、一週間かけて新旧の葉が一斉に入れ替わる(離層を形成、紅葉する)。混芽。鹿児島蒲生オオクス幹周り24.2m(1位)、熱海ヒマヤ神社オオクス 23.9m(2位)、佐賀川古オオクス21m(3位)は空洞に観音様を祀る。映画・となりのトトロで有名。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				宮島の鳥居もクスノキを使用。伊勢神宮のクスノキの樹令は600年。 樟脳は幹をチップ状に砕き、釜内で蒸し蒸留(水蒸気蒸留)。蒸気を冷却すると半透明白色の結晶ができる C <sub>10</sub> H <sub>18</sub> O テルペン類。
	クスノハカエデ	D	ムクロジ科	カエデの仲間では唯一常緑樹。葉の切れ込みの無いものも混ざる。(カエデは世界で129種、中国で101種、国内では27種)。 カエデは葉が蛙の手に似る事に由来し、カエデ科の落葉高木の総称。葉の多くは掌状、全く葉の裂けない物、複葉にならない物、紅葉しない物がある。
	クチナシ	O	アカネ科	(梔子) 直径7~8cmの白い花は、6弁に見えるが実際はロート形の花が6つに裂けたもの。秋に付く実は6~7cm(赤い)、食品着色料などに利用する。 基盤の脚の形状はクチナシの実に模してある。(対局時は口出し無し→くちなし)
	クヌギ	D	ブナ科	(栲) 一般的に栲の団栗をドングリと云う。雄花は7~8cm垂れさがる。葉は7~15cmと細長く雌花は葉の脇に付く。雌雄同株。 栲炭は、菊炭と云い好まれる(紋様が菊の様)。葉を蚕に与えると繭は緑になる。
	クマザサ	D	イネ科	葉は10~25cmと大き目。冬に葉の縁が枯れ、隅取られる事に名の由来。
	クマノミズキ	D	ミズキ科	(熊野水木) 幹はまっすぐ、枝は対生、水平に伸びる。枝先に小花が集まって咲く。
	グミ		グミ科	常緑性と落葉性のものがある。常緑性のもは赤い実がなり庭木に利用される。
	クリ	B	ブナ科	(栗)学名はカスターニアでカスターネットの材木に。花穂(カヌイ)の根元が雌花、他は雄花。イガは殻斗(カク)。ブナ科で唯一鋸歯の先端が緑色(他は茶色)。 縄文時代から栽培され重要な食料であった。天津甘栗は中国河北省の産地で収穫された甘栗が、天津港から輸出されたことに因む。
	(くるみ)		クルミ科	木目が美しい(桂むきにし(0.2mm)車の内装に使う(着色可)。 実は車のタイヤの原料 (スパイクタイヤでは雪解け時アスファルトを傷つけるのを防止。スタッドレスタイヤ)。材はスキー板、銃床、こたつの炉の材に。
	クロガネモチ	A	モチノキ科	(黒鉄鰐) 雌雄異株。葉の付け根に、花が咲き実は赤い。幹肌は白っぽく見える。「金持ち」の響きから縁起木として植えられる。
	クロキ	B	ハイノキ科	樹皮は黒いが材は白い。西緑地に一番多い樹木。枝、葉の付け根に複数の白い雄しべが目立つ可憐な花が咲く。
	クロチク	B	イネ科	(黒竹) 桿(幹に当たる部分)は初め緑、秋から冬にかけメラニン色素が増え、黒斑ができ数年で黒くなる。
	クロバイ	J	ハイノキ科	桜が終わるころ、白い見事な花が咲く。ハイノキ類の木灰はアルミニウムを多く含むので媒染剤に使う。(他の媒染剤にタンニン剤、鉄塩の類)。
	クロモジ		クスノキ科	(黒文字) 樹皮に文字の様な黒い斑(マダラ)。花は黄色(芽吹きと開花が同時)。3.4年目の枝から高級和菓子の楊枝を作る。独特の芳香性あり。 材は緻密、均質で削りやすく割れ難く細かな加工がし易い。枝葉からの精油は「黒文字の油」と呼ばれ香水・石鹸の香料に。東北地方に多い。 枝を東ね和風庭園の垣根に使う(高価なので柳で代用する事が多い)。冬芽に特徴、花芽は丸く、葉芽は尖る(葉芽の周りに花芽があるが混芽ではない)。
	クワ	H	クワ科	(桑) (ヤマグワ) 養蚕に欠かせない(カイコ:クワコというガが原種)。雌雄異株と雌雄同株がある。実は紫。(ヒメコウゾの実は赤)
け	ケグワ	C	クワ科	
	ゲッケイジュ	A	クスノキ科	(月桂樹)(別名 ローレル) 枝や葉に芳香がある。葉を乾燥した料理に使うハーブとし有名。勝者の象徴。実は8月下旬黒紫に熟す。
	ケヤキ	D	ニレ科	(欅) 街路樹に多い。関東地方に多くみられ武蔵野を象徴する樹木。清水寺の舞台は樹令300(600)年以上の大木を使っている。錦帯橋にも使用。 環孔材(年輪に沿って道管が並ぶ特徴を持ち1年ごと道管を更新する)。着果枝(葉と実を付けた枝)枝ごと切り離され、風で遠くに飛ばされ発芽する。
	ケンポナシ	B	クロウメモドキ科	(玄圃梨) 実と一緒に太った果柄は甘みがあり食べる事ができる。ナシの様な歯触りがあり、上品なレーズンの様な味を持つ。 (英語名: ジャパニーズレーズンツリー)。コグサギ型葉序が特徴。環孔材で木目が美しく、狂いが少ないので差し物に利用される。
こ	コウゾ	K	クワ科	(楮)(別名 かぞ・かんず) 雌雄同株 葉はクワに似る。6月頃淡黄色の花。果実はクワと同じく赤熟する。樹皮は和紙の主要な原料。
	コウホネ	A	スイレン科	(川骨) スイレンに似ているが肋骨様(あばら骨)に見立てている。黄色の花。気中葉(浮葉)が水面上にある。根茎は強壮・止血剤に利用。
	コウヤボウキ	J	キク科	(高野箒) 高野山では竹(果樹、花木)を育ててはいけないう事から箒の代用品。(献花は自生するコウヤマキを使う)。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
	コウヨウザン	E	ヒノキ科	(広葉杉) 葉は3~7cmの平たい針形、先端が尖り縁に細かいギザギザがある。裏面は気孔線(気孔が集まる)が白い線となり目立つ。台湾原産 ヒノキ、スギより成長が早い。ヒノキの強さとスギ並みの軽さを兼ね、再造林の手間(切株から成長、植林なし)が省け林業の再生に期待される。山口県の早生樹の一つに指定されている。
	コガクウツギ	H	アジサイ科	(小額空木) 枝先に両性化と花弁の様なガクが目立つ装飾花がまとまって咲く。
	コクサギ	F	ミカン科	(小臭木) 葉が枝の同じ側に2枚続けて付いてから、反対側にまた2枚続く独特の葉の付きかた(互生2出)が特徴。この形の葉序を「コクサギ型葉序」という。西緑地公園内の本葉序をもつ他の樹木にイソノキ、ヨコグロノキ、ケンボナシ、シマサルスベリ、微妙ながらヤブニッケイなどがある。
	コシアブラ	O	ウコギ科	(漉し油) 新芽は食用で天麩羅に、皮から錆止め用の油をとる。杓文字、下駄の材(材は白)。葉は5枚、葉柄はながく長枝には左右交互に、短枝では東に付く。(タカノツメの葉は3枚)。
	コナラ	D	ブナ科	(小檜) 葉に光沢があり縁のギザギザが鋭い。花は風媒花で臭いはなく雄花が垂れさがる。受粉した雌花が膨らみ秋に細長い団栗になる。落下した団栗は尖った方から芽を出す、乾いた団栗は発芽しない。雑木林の主要樹の一つ。葉は堆肥に、樹皮は染料に使う。シイタケの原木。別名 ホウソトはクヌギ、コナラの古名をさし、万葉集にもこの名が見える。
	コノテガシワ	D	ヒノキ科	(児の手柏) 葉が開いた子供の手の形に由来。中国原産江戸末期に渡来。檜に似るが葉の表裏の区別がつかないのが特徴。
	コバノガマズミ	J	ガマズミ科	(小葉莢) 葉の付け根に托葉(タクヨウ)がつき、葉の茎が5mm以下と短いのが特徴。実は赤く平らな球形になる。
	コバノミツバツツジ	J	ツツジ科	(小葉三葉躑躅) 雌しべ1本に対し雄しべが10本(ミツバツツジは5本)。ツツジ類は800~1000年生きると云われるが巨木になる事はない。花と葉が同時期にできる(ヤマザクラ型) ミツバツツジは花が終わってから葉がでる(ソメイヨシノ型)
	コバンモチ	K	ホルトノキ科	常緑樹なのに青葉の中に赤く色づく葉が点在する。葉は2~3年周期で古い順に更新するさい紅葉する。しかし、その時期がまちまちで樹木全体では常緑の中に色づいた葉が目立つ様になる。仲間のホルトノキも同じ現象がおこる。
	コブシ	L	モクレン科	(拳) 春、若葉の芽吹く前に開花(白)、甘い香り。実は数個が集まる袋形、実のごつごつした形が握り拳に見えるのが名の由来。この地方では近縁のタムシバが多い。(花の下に葉が無い、コブシには花の下に1枚小葉があるので区別できる)
	コメツガ	G	マツ科	(米桐) 葉は線形で扁平長短2葉が混じる。丸果はマツカサに似るが遥かに小さく、ツガと同族で葉が小形な点が米に例えられた。垂高山針葉樹(2,000mクラス)。
	ゴモジュ	A	ガマズミ科	(別名タイトウガマズミ) 挿し木が可能。タイサンボク、サンゴジュと共に防火樹に利用される。(タイサンボク:モクレン科 花は香料に)
	ゴンズイ	A	ミツバウツギ科	(権草) 小葉2~5対の羽状複葉で葉先は尖る。花は5月頃淡黄緑色の小花が付く。実は朔果(サクカ)。紅熟後裂け黒紫色の種子が露出。果皮内面の紅との対比が美しい。(朔果は水分を含まない実で熟すと裂けて中の種子が露出する)材が建材として役立たないことから食用にならず役立たない魚(ゴンズイ;毒を持つ)の名が付けられたと云う。
さ	サイカチ	A	マメ科	(皂莢) 枝が変形し幹から手裏剣状のトゲが出る。トゲを有する樹木の中でも最も痛そう。再勝で縁起木。葉は互生の奇数羽状複葉(先端のみ1枚)。実は扁平な形 20~30cm前後と長く捻じれプーメラン様に。サヤには有毒成分を含む。同じ株に雄花、雌花、両性花の3種類が咲き、色は黄緑で房状。実はぬるま湯に浸し石鹼の代用となる。
	ザイフリボク	A	バラ科	(采振木) 別名シデザクラ(四手桜)。細長い花弁が、武将の指揮棒の房飾りに似ていることに由来。山桜と同時期に咲く。桜の原種(サクラ亜科)の一つ。
	サカキ	J	サカキ科	(櫛) 枝葉は神棚に供える。葉は光沢のある革質。花は葉の付け根につき、咲き始めは白く、やがて黄色を帯びる。
	サクラ		バラ科	(桜) 名付けられた種類・品種だけで800種以上ある。原種は主に野山で見られる。平安時代から庭に植え観賞される様になり多くの園芸種が生まれた。「種」の概念でサクラ類を分類すると世界(北半球)に凡そ100種、日本には10種が存在する。(ヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラ、オオヤマザクラ、マメザクラ、タカネザクラ、チョウジザクラ、エドヒガン、ミヤマザクラ、カンヒザクラ) 2018年3月13日 遺伝子解析から新たに紀伊半島南部に群生する「クモノザクラ」が11番目の新種と認定された。これはオオシマザクラ(1915年)に続き約100年ぶりのことである。(カンヒザクラ(沖縄)は外来種との説もある)
				東京多摩川流域(川下から標高2000m級の雲取山)にはヒカンザクラ、クモノザクラを除き全てのサクラが自生する。「サ」は早苗 早乙女 「サ」は接頭語で神稲の意 「クラ」は穀物を貯蔵するところ。共に稲作に関連する語であり、開花を農作業開始の目安に。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				桜前線: 全国のソメイヨシノ標準木を対象に開花を宣言される。同じクローンを持ち、札幌一鹿兒島間、実に1,600Kmの広範囲で鑑賞される。北海道の札幌以北はエゾヤマザクラ(オオヤマザクラ: やや赤みを帯びる)、沖縄はカンヒザクラ(ヒカンザクラ)を標準木に用いる。(染井吉野同士は生殖出来ない)
	サザンカ	D	ツバキ科	(山茶花) 日本固有の種、椿に似ているが花弁の1枚1枚を落として散る。
	サツキ	J	ツツジ科	(皐月) 多くの園芸品種がある。陰暦の5月頃に咲くことから「皐月」の名がある。
	サネカズラ		マツブサ科	(実葛) 別名 美男葛(ピナンカズラ)。枝・葉から出る粘りのある液を整髪料に利用したのが名の由来。 花は夏に開花。花弁とガクは薄黄色。実は小さな実が集まり玉となる。
	サルスベリ	O	ミソハギ科	サルスベリ(百日紅ハクジツクウ)中国原産。7月頃、百日間程度咲く、幹がすべすべして、猿も登れないと名付けられた。
	サルトリ(イ)バラ		サルトリイバラ科	茎は細く他物に絡み、強い角質の棘をもつ。葉は円形ないし楕円形、基部に2本の巻ひげがある。花は初夏、黄緑色の球形の小花を付ける。 雌雄異株。赤い液果を結ぶ。柏餅の葉に用いる。サンキライはサルトリバラの俗称。
	(サワグルミ)		クルミ科	山地の明るい湿潤な場所や溪流沿いに巨木が多い。花は穂状に垂れる。実は30~40cmの果穂に翼のある種子が数十個垂れさがる。小葉の先端は尖る。 葉は奇数羽状複葉(シナサワグルミは偶数)。柄にヌルデの様な翼(平ら)が無い(シナサワグルミには有る)。実は果穂の一粒がシナサワグルミに比し小さい。
	(サワラ)		ヒノキ科	(榿) 材は耐水性に優れ古くから生活用品に利用。榿ほど強い香りが無いので桶・飯びつに向く。葉の裏に白の気孔線がある。(気孔線がX・H形、榿はY形) 油分が多く耐水性からコケラ茸きに利用(南禅寺等)。
	サンゴジュ	L	ガマズミ科	(珊瑚樹) 葉は厚く光沢あり 10~15cm(葉に水分を多く含み耐火性に優れる。1995年阪神大震災でこの樹の持つ防火性が認識された。生垣に利用) 花は筒状の花(白)の先端が裂けて開き房になって咲く。秋には赤い実がサンゴの様に枝先を飾る様が名の由来。
	サンシュユ	D	ミズキ科	(山茱萸) 別名 春黄金花(ハルコカネバナ)・秋珊瑚(アキサンゴ)。「春は黄色から」早春、葉がでる前に開花する。 江戸中期朝鮮半島から薬用植物として渡来。冷え性、婦人病、滋養強壮、果実酒に利用する。
	(山地)			日本の山地面積比は66%、最大の県は高知県84%、最小の県は大阪・茨城県31%、山口県は71%、周南市は78%。因みに東京都は36%。
し	シイモチ	F	モチノキ科	(椎籬) 葉がシイに似る、実はモチノキと同じ。ナナミノキに似る。
	シキミ	J	マツブサ科	(楡) 葉は枝先に集まり輪生状につく。実は八角形、猛毒「悪しき実」が名の由来(シキ酸からタミル)。ブウタンに多い。 古代から神前に供えられた木。その毒性から獣が墓を荒らさないよう墓地の生け垣に利用された。
	シナサワグルミ	C	クルミ科	(支那沢胡桃) 中国原産明治初期に渡来、サワグルミの仲間。雌雄同種で雄花、雌花とも尾のように垂れさがる。秋に付く実には長い翼がある。 葉は偶数羽状複葉。枝に平たい翼がある。実はサワグルミに比し大。小葉は長い楕円形で先端が丸い(サワグルミは尖る)。
	シナノキ	C	アオイ科	(科木) 初夏、葉の付け根に帯黄色で香りの高い小花を房状につけ、花柄の中部に籠状の苞がある。
	シナミズキ	C	マンサク科	(別名ニオイトサミズキ) トサミズキの仲間臭いの有る木。
	シノブヒバ	B	ヒノキ科	
	シマイヌツゲ	D	ツゲ科	
	シマサルスベリ	N	ミソハギ科	琉球列島原産。繊細な花弁が真夏の風に吹かれ散る様は「夏に雪を降らせる木」とも呼ばれる。樹形が直立性で枝が横に張らない。 幹は白く大枝は真直ぐに伸びる。葉はコグサギ型葉序。
	シマトネリコ	B	モクセイ科	根が強く繁殖旺盛、葉は奇数羽状複葉で対生。生垣など何処でも発芽生育し、環境破壊に通じるので住宅地に植えてはいけない。
	シャシャンボ	J	ツツジ科	(小小ん坊) ツボ状の白花が下向きに咲く。実は白粉を帯び、甘酸っぱい。眼に良い和製ブルーベリーの一つ。
	シャリンバイ	L	バラ科	(車輪梅) 葉が車輪のように出ることが名の由来(輪生)。葉には僅かに鋸歯があり、葉の付け根は赤みを帯びる。(モッコクには鋸歯がない) 花は梅に似る。樹皮・根は大島紬の染料に利用する。タンニンと泥染(鉄分による焦げ茶色が特徴)。(同類に丸い葉のマルバシャリンバイ)

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
	シラキ	B	トウダイグサ科	材の中が白い事に由来(材に触ると白い粉が付く事の説も)。葉脈に沿った部分の紅葉が遅れる為、葉の紅葉は赤と黄のコントラストが鮮やか。中尊寺の山道に大木があり、実はお茶の実の形である。
	シラカシ	D	ブナ科	葉は細くスマート。ドングリの半分は殻斗で被われる。関東地方の屋敷林はシラカシ、山陰地方はツイジマツ、鹿児島地方では マキを使う。
	シリブカガシ	D	ブナ科	ブナ科で唯一、秋に開花。翌年、秋に実が熟すので花とドングリが同時に見える。ドングリの尻に大きなくぼみがあり名の由来に。ドングリの表面はロウの様な物で覆われ、磨くとピカピカになり美しい。葉は全縁(鋸歯がない)。
	シロタエ	A	バラ科	(白妙) 大島桜系の園芸品種。白系の大輪。
	シロダモ	B	クスノキ科	(白だも) 葉は楕円形、光沢、先端が尖る、葉裏は白い。葉脈は付け根からくっきりと3本に分かれる。花は黄褐色の小花が集まる。実は晩秋赤く熟す。
	シロモジ	B	クスノキ科	(白文字) クロモジに比べ樹皮が白っぽくシロモジと呼ばれる。葉は大きく3つに裂けるのが基本(裂けない事も)。
	シンジュ	C	ニガキ科	(神樹)(別名ニワウルシ) 中国原産。葉は羽状複葉の中では最も長く1mに及ぶものもある。実は翼形。
	ジンダイスギ	D	ヒノキ科	
	(シュロ)		ヤシ科	頂芽に成長点があり、横に枝がでない。和ジロは葉が垂れ、唐ジロの葉は垂れない。雌雄異株ながら雌花(サンゴの様な花)、雄花(大きなカズノコの様な花)と両性花がつく。繊維質の樹皮は 縄、タワシ等に。幹は撞木シュモク「鐘つき」に利用する(幹が柔らかく鐘を傷つけない)。
す	スイレン	A	スイレン科	(睡蓮) 昼間は水の上に花、夜間は水に潜る(朝、目覚め夜、寝るので睡眠する蓮の意)。西洋では再生のシンボル(再チャレンジ)。開花に2時間を要す。
	スイショウ	F	ヒノキ科	(水松) 気根(呼吸根)が水中(湿地)にあり、湿気に強く水の中でも育つ(呼吸根は酸素供給環境が劣悪なほど出る)。中国原産の落葉高木
	スギ	E	ヒノキ科	日本を代表する針葉樹で最も大きく、長寿、神聖な木であり神社仏閣では特別な木。お酒との関係も深くお酒の麴はスギ材の麴蓋、仕込みはスギの樽を使う。お酒が出来上がると、スギの葉で杉玉を飾り新酒ができた事を知らす。日本海側のスギの葉は、閉じてウラスギと呼ばれ、雪の重さで枝が折れないよう雪が落ち易い形になっている。太平洋側の葉は開いてオモテスギと呼ぶ。スギの木は日本一の高木 62.3m(京都)ドローンで計測。
	スタシイ	L	ブナ科	(すだ椎) 一般にシノキと呼ばれる。葉は厚く裏面は、灰褐色の毛が生え一見金色。縁は滑らか、又は、浅い鋸歯が入る。葉先は極端に長いツブラの2~3倍。雌雄同株、初夏に一齐に花が咲き、甘い香りがある。花が咲いた翌年の9~11月に付く実は、厚い殻に包まれ、熟すと先端が3つに割れドングリが現れる。樹皮に皮目が見え成長と共に縦に裂ける。成木、老木では表皮が隆起し厚い短冊状に裂ける。近縁種のツブラジイの表皮は滑らか。ドングリはスタジイより小型。
せ	セイヨウハコヤナギ	L	ヤナギ科	(別名 ポプラ) 落葉高木、北米原産。葉は菱形で樹形が美しい。街路樹や牧場に多い。アメリカヤマナラシなどの同族数種を総称しポプラと呼ぶ。
	センダン	L	センダン科	(梅檀)(棟オウチ古名)台湾の木。アジア各地の暖地海辺に自生。春に紫色の花が咲く。実は上から見ると星形で5稜。樹皮、果実は駆虫剤に利用。葉は特徴的な2~3回羽状複葉、小葉3枚に分かれた複葉が、更に、鳥の羽根様に連なる珍しい葉の付きかたをする。「梅檀は双葉より芳し」という諺は、このセンダンではなく白檀のこと。白檀は発芽の時から香り高く、大成する人は幼い時から優れているの例え。唱歌「夏は来ぬ」4番の歌詞に出てくる。山口県指定の早世樹の一つ。
	センペルセコイア	E	ヒノキ科	(別名セコイアメスギ、アカスギ、レッドウッド) 世界で一番高い木。米国レッドウッド国立公園(ヨセミ)には115mを超える木がある。径:11m 表皮:50~60cm。樹皮はコルク質で耐火性があり山火事に強い。北米カリフォルニア州ネヴァタ山脈、乾燥地、樹令3000年、松ぼっくりが付く。(コースト・レッドウッド) 1日に約2000Lの水を吸い上げると云われる。
	(世界で一番)		重い木	ギガントセコイア(センペルセコイアの雄木)。
			軽い木	バルサ:模型飛行機 アマゾンの奥地に生育している(ポーラス状なので空気が入る)。
			古い木	ウオーレマイパイン 1994発見豪州シドニー西200km。2億5000年~1600万年前に繁茂(イチイの仲間)。
そ	ソウシジュ	F	マメ科	(相思樹)(別名タイワンアカシヤ) 沖縄の街路樹に多い。幼木老木で葉が違う。幼木は偶数羽状複葉、発芽したてのみで直ぐに落ちる。成木で見られる葉は葉柄の部分で「仮葉」と呼ばれる。4~5月ごろ仮葉のわきに径約1cmの球形で黄金色の頭状花序を付ける。
	ソテツ	A	ソテツ科	(蘇鉄) 雌雄異株。雄木は風により花粉を飛ばす(1.5Km程度)。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				花は雌雄とも円柱状。雄花は直径15cm位、高さは50cm位、(黄色)。雌花は直径30cm位、高さ:20cm位、(薄茶色)。
	ソメイヨシノ	L	バラ科	(染井吉野) 大島桜と蝦夷彼岸のハイブリッド(雑種)。江戸時代末に江戸染井村の植木屋から吉野桜として売り出す。挿し木で育種、同じクローンを持つ。桜には葉の付け根の葉柄に蜜腺があり、蟻が寄ることにより毛虫の食害から葉を守る。
	ソヨゴ	H	モチノキ科	(冬青) 赤い実はサクランボの様に果柄が長い。名は葉が風にそよぐ如くウエイブしていることに由来。
た	タイワンイヌグス	F	クスノキ科	(タブノ木の仲間) 初夏、若葉が芽吹くころ黄緑色の小花が集まって咲く。(イヌ、カラス等が付くと本種より劣る カラス、スズメは大小を表す)
	タイワンスギ	H	ヒノキ科	
	タカノツメ	O	ウコギ科	(鷹の爪) 葉が落ちた先端(冬芽)が鷹の爪様になる(名の由来)。葉3枚(コシアブラ葉5枚)。
	タブノキ	J	クスノキ科	(楠の木)(別名イヌグス) 皮からの糊と杉葉から作るお香は最高級品。木材は堅く美しく建築用材、彫刻、舟材に用いる。木肌はブツブツ状。冬芽は花芽と葉芽が一つになった混芽。果柄が赤色、芽吹く時は木全体が赤く見える。葉先は尖る。八女線香の製造工程 ヤメスギの葉 → 乾燥(60~65℃) → 搗いて粉末 → タブノキの葉と混合し煉る → 整形 → 乾燥 → 製品。
	(タラノキ)		ウコギ科	(櫨の木) 早春の新芽はタラノメ。樹皮に多数のトゲと葉の取れた跡が目立つ。枝の先に4cm位の花が群れて咲く。棘で節分に鬼の目を突く習わし。タラ、サンショウ等の棘は鹿などの食害から守るためにある。芽は山菜として好まれるが、山野では「2番芽以降は採らない」という最低限のルールが守られないケースも多く、枯れてしまう。
	タラヨウ	A	モチノキ科	(多羅葉) 葉は長さ10から16cm、堅く厚い。葉裏は淡い黄緑色。鋭い鋸歯。先のとがった物で葉裏に文字を書くと次第に文字が黒く浮き出る。(葉に含まれるポリフェノールが、ポリフェノール酸化酵素を介し空気中の酸素と反応し黒褐色になる。バナナ、林檎の切り口が黒くなるのも同じ現象。ポリフェノール酸化酵素を少なくし、皮を剥いても変色しにくい品種が開発されている。(青森県りんご試験場「青り27号」)昔インドではヤシ科の「多羅樹タラジュ」の葉に鉄筆でお経を書いた事にちなみ、葉に字が書けることから「多羅葉タラヨウ」と名付けられた。1997年郵政省がタラヨウを「ハガキノキ」にちなみ「郵便局の木」と定め、郵便局のシンボルツリーとして東京中央郵便局などに植栽した。タラヨウの葉は「定型外はがき」として投函が可能である。
	(竹と笹)			竹は成長時皮が剥げる。竹の 根の深さ 50cm 保水力なし。笹は皮を落とさない。
ち	チドリノキ	B	ムクロジ科	(千鳥の木) カエデの仲間でも葉にモミジ形の切れ込みが無い。実は茶褐色に熟す翼の形が名の由来。
	チャノキ	C	バラ科	(茶の木) 10月ごろ白花を開き翌秋に成熟。通常3個の種子がある。(開花と実が同時期に見える)。
	チャンチンモドキ	I	ウルシ科	実は堅くハンマーで叩いても割れない。発芽口が5つある。新芽は猿の餌。山口県の指定早生樹の一つ。他にランダイスギ、コウヨウザン、センダン。
つ	(ツクバネウツギ)		スイカズラ科	(衝羽根空木) 葉は縁に粗いギザギザがあり対生。実は細長い袋果、先端にガクが残りプロペラの様に見える。
	ツクバネガシ	I	ブナ科	(衝羽根檜) 樹皮は黒褐色。枝の先端に葉が4枚付く様子が羽根つきの羽根に見立てられた。
	ツバキ	D	ツバキ科	ツバキが赤いのは鳥に受粉してもらう為。お礼は多くの蜜(メジロ、ヒヨドリ)。チャドクガ(葉を食べる)の毛に触れるとかぶれる。
	ツブラジイ	L	ブナ科	(円椎) 老木でも樹皮が滑らか。雄花は淡い黄で5~10cmに垂れる。雌花は上向きに咲く。実は翌年の秋に熟し食べられる(殻は5つに割れる)。
	(ツルウメモドキ)		ニシキギ科	(蔓梅擬) 蔓性植物。黄色の実が秋に熟すと中から赤色の皮に包まれた種子が現れ美しい。盆栽等に利用。雌雄異株。
	ツルグミ	L	グミ科	蔓性木本。菖蒲園の傍にΦ=5.9cmの物がある。
て	テイカカズラ	A	キョウチクトウ科	(定家葛) 照葉樹の幹、岩場等に絡みつき気根(空気中にできる根)を出し上下に茂る。葉は光沢が有り堅い。花は径2~3cmスクリュウの形(初夏)、強い芳香。藤原定家が式子内親王(ショクシナイシノウ)に思いを寄せたままこの世を去り、皇女の死後もツタカズラとなって、墓を包み込んだと云う伝説がある。
	テ-ダマツ	B	マツ科	北アメリカ原産 3葉、最大の特徴は松ぼっくりに棘がある。松脂が多く松の材線虫(マツザイセンチュウ)に強い。(松枯れに強い)
と	トウカエデ	B	ムクロジ科	(唐楓) 江戸時代、長崎に清国船が寄港した際に献上された。葉の切れ込みは3つ。ハナチルサト(人気の品種:光源氏の心休めた最愛の女性)

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				新芽の先の色は茜色で光源氏の好きな色とも云われる。
	トウグミ	N	グミ科	(唐茱萸) ナツグミの実が大きい変種。果樹として植栽される。
	トウシュロ	C	ヤシ科	葉が垂れない。中国産。
	ドウダンツツジ	L	ツツジ科	開花とほぼ同じ時期に芽吹く新緑は美しく、秋に色づく赤色も美しい。
	トウチク	F	イネ科	条件が揃うと稈の長さが70から80cmに達する。(新株は大きく育つ)
	トウナンテン	E	メギ科	細長い葉が特徴。
	トウネズミモチ	B	モクセイ科	(唐鼠竊) 葉脈は日にかざすと透けて見える。実は円形で春先まで果柄が残る。(ネズミモチの葉脈は透けず実は黒く艶がない楕円形) 花は枝先に小花が集まって円錐形の房状に咲く。
	トキワサンザシ	L	バラ科	(一) (別名ピラカンサ)「ピラカンサ」の名はギリシャ語「ピル;火」と「アカンサ;棘」からなる。棘が刺さると、目から火が出るほど痛い。との意がある説あり。 生垣に多く利用される。
	トクヤマザクラ	J	バラ科	(徳山桜) 桜は陽樹の代表。花卉が13枚のヤエヤマザクラ。樹令60数年(R2年現在)。幹周囲 大:2.1m 小:1.6m。 H20年4月5日「桜守」佐野籐右衛門さんが来訪「山桜の突然変異種で樹令300年は生育される」とコメント。山桜は花卉数を増す突然変異を起し易い。
	トゲナシニセアカシア	E	マメ科	ハリエンジュ(別名ニセアカシア)の造園樹木。花は蜂蜜になる有用樹木。
	トサミズキ	K	マンサク科	(土佐水木) 花は下向きの穂状。花穂は長く小ぶりの黄花が7~8個つく。葉は波状の鋸葉、先端はトゲ状となる。高知県に自生する。
	トチノキ	H	ムクロジ科	(栃の木) 白い花。葉は手のひら形が(5枚)集まり、大きな団扇の様な形になる典型的複葉が特徴。水辺に強い。日本固有種の落葉広葉樹。 冬芽のネバナバは乾燥、寒さから守る。種子をつぶして渋を抜いたデンプンは栃餅などの原料になる。縄文時代の遺跡から貯蔵された実が出土している。 果実の殻は堅く棘があり、西洋では街路樹に多様される。マロニエ(セイヨウトチノキ)の葉は5~7枚の複葉。
	トネリコ	O	モクセイ科	(栲) かつては、刈り取った稲を干す樹木として田んぼの畦に植えていた。(コバノトネリコ 別名:アオダモと共にバットの原材に)
	トベラ	O	トベラ科	(扉) 茎葉に一種の臭気があり、昔、除夜に扉に挟んで疫鬼を防いだ。また、節分の豆を炒る時、この葉を入れパチパチ音がしたら炒り頃の合図となる。 豆まき(マメは魔を滅するに通ずる。豆まきの行事は京都貴船神社が発祥)。 葉は葉脈の中央にある主脈が太く白いのが目立つ。葉表は光沢、鋸歯はなく先の丸いへら様の長い楕円形。傷つけると刺激臭が強く、乾くと裏側に反り返る。 実は緑褐色の球形で熟すと3つに割れ赤い種子が出る。
な	ナガバモミジイチゴ		バラ科	モミジイチゴの近似種、西日本に分布。幼木時は3~5に切れ込んだモミジ型から、成長につれ、切れ込みが少ない葉に変化する。
	ナギ	F	マキ科	(榊) 葉は広い針葉樹。葉脈が縦のみで、ちぎれない(縁が切れない)事から嫁に持たす風習がある。 熊野三山の御神木。奈良県春日大社の純林は有名である。
	ナツメ	D	クロウメモドキ科	(棗) 初夏に芽がでるのでナツメの名がある。葉のつけ根に花。葉は互生に付き、光沢があり葉脈が三つに分かれる。実はビタミン、ミネラルを豊富に含む。
	ナナミノキ	L	モチノキ科	クロガネモチと殆んど同じで見分けが難しい。(実の皮を剥くと線が一本入る。クロガネモチは2本なので判別できる)
	ナラガシワ	D	ブナ科	(檜柏) 団栗(堅果)2cmと比較的大きい。葉は柏、ミズナラに似るが葉柄が長い。(柏、ミズナラの葉柄は短い)
	ナンキンハゼ	A	トウダイグサ科	(南京黄蘗) 石鹼の代用になる。(ナンキンハゼ、サイカチ、ムクロジは水辺に植え石鹼の代用)ハゼと付くがウルシ科でないで被れない。 葉は菱形状(ハートに近い)で先端が尖る。葉や枝が傷つくと乳液がでる。新緑も秋の黄・紅葉もすばらしい。冬季の白い実にも風情がある。 (種子は鳥に食べられることで発芽を抑制する物質が取り除かれ、野鳥の移動した先でフンとともに排泄され発芽する)
	ナンテン	D	メギ科	(南天) 中国原産。葉は羽状複葉。初夏、白色の小六弁花を総状につけ、秋、球形の赤実の果実をつける。難を転じるに通じる縁起木。
に	ニオイヒバ	K	ヒノキ科	(一) 北米原産。葉にパインアップルの香り。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
	ニシキギ	A	ニシキギ科	(錦木) 真っ赤な紅葉が艶やかなのを着物の「錦」に例えた。平たい部分(コルク質)は細い枝を補強し、刀に見えることから身を守る木と云われる。実は煎じて虱(シラミ)を殺す。錦綾なす代名詞(実も紅葉も楽しめる)。中には枝にコルク層(羽状翼)が発達しないものがある(コマユミ)。
	ニッケイ	H	クスノキ科	中国南部の原産。古くから日本でも栽培され、菓子類・薬用として利用され有用な樹木。ヤブニッケイに比し葉の基部は鋭角に付き、やや細く葉先も尖り3本の葉脈は葉先近くまで伸びる。臭いも強い。
ぬ	ヌルデ	L	ウルシ科	(別名 白膠木フシノキ) 紅葉が綺麗(赤)。葉の茎が平らでハゼと見分けできる。お歯黒の材。その昔、鉄片を茶の汁、又は酢につけ酸化した褐色の液(褐色・悪臭)に若芽・若葉などに生じた瘤状の虫えい「フシ」の粉を付け菌に塗った。
ね	ネジキ	C	ツツジ科	(根木) 幹が捻じれている。葉は楕円形で鋸歯がなく、縁は大きく波打ち毒成分がある。花は釣鐘形(スズラン様)で白い。実は褐色で先端が5つに裂ける。
	ネズミサシ	J	ヒノキ科	(杜松)(別名ネズ) 葉がチカチカしネズミが通らない事が名の由来。ビャクシンの仲間(エンピツノキ:鉛筆の材、コモンジュニパー:高級ジンの香り付け)
	ネズミモチ	N	モクセイ科	(鼠麴) 葉は揉むと青りんごの臭い。トウネズミモチより葉脈が不鮮明。実は細長く、黒く、艶がなく、ネズミの糞に似ている事が名の由来(漢方滋養強壯薬)。
	ネムノキ	C	マメ科	(合歡の木) 夜になると眠るように葉を閉じ垂れさがるのでこの名がある。(就眠運動) 中国では本種の就眠運動をとらえて、「夫婦和合」や「家内平和」の象徴として庭に植える風習がある。
の	ノグルミ	J	クルミ科	葉は5~7対の互生。雄花は尾状に直立(クルミ科で当種のみ)、雌花は長玉形。実は長さ3~4cm楕円形の球果。種子はリスに使用する。
	ノブドウ	L	ブドウ科	落葉慢性低木。巻きひげは二股に分かれ葉は円い心臟型で3~5裂。花は淡黄緑5弁の小花。花後は球形の液果、食べられない。(瓢箪池傍にΦ=3.4cmの物)
	ノムラモミジ	C	ムクロジ科	(野村) 江戸時代からある品種。イロハモミジ系より葉が大きく、縁のギザギザが細かく整っている。葉の色は赤(春~秋)。実は葉の下側に付く。
は	ハエドクソウ		ハエドクソウ科	昔はハエ取り紙の製造に使う。
	ハクウンボク	C	エゴノキ科	(白雲木) 白い雲が大空にたなびく様な花の姿をしている事が名の由来。初夏、清楚で芳香のある明るい白い花が咲き、園内いたるところで見られる。
	ハクサンボク	A	ガマズミ科	(白山木) 葉は厚く光沢があり上半部の鈍鋸歯が特徴。花は4~5月ごろ小花が集まって咲く(白)。実は赤い。本州では山口県、九州、沖縄に分布。
	バクチノキ	O	バラ科	(博打の木) 木肌に特徴がある。皮が鱗状に剥がれ落ち、跡が紅黄になる。(博打で負け、着ぐるみ剥ぎ取られた様子から名の由来に) 葉に蜜腺ある。花は小さく白い穂状。桜の原種(サクラ垂科)の一つ(幼木生育中)
	ハクチョウゲ	N	アカネ科	元禄時代以前に中国から渡来したと云われる。葉も花も小型で生垣に利用される。
	ハゼノキ	B	ウルシ科	(櫛木) 樹液に触れると被れるので注意。果皮から採れる樹液からロウ(木ロウ)を造る。秋の紅葉は趣がある。
	ハナゾノツクバネウツギ	C	スイカヅラ科	(別名 アベリア) 花が長期間見れ、早ければ5月から12月頃まで咲いている。木は堅く剪定鋏では切れない。
	ハマヒサカキ	L	サカキ科	ヒサカキと違い葉の先端が丸みを帯び、葉は小さいく全体が裏側に反る。
	ハリエンジュ	E	マメ科	(針槐)(別名偽アカシヤ) 羽状複葉(対生、奇数羽状複葉)。花は白い蝶の様な形。国内の養蜂業を支える重要な有用樹。材は黄味を帯び至極堅い。幼木の幹にはトゲ(名前の由来)。小葉の先端がくぼむ(エンジュは尖るので区別できる)。北米原産の外來種。一般的にアカシアと呼ばれる本来のアカシア属は、ミモザの名で親しまれるフサアカシアやギンヨウアカシアの事。区別の為、ニセアカシアの別名がある。造園樹木としてトゲナシニセアカシア、薄紅ニセアカシアがある。
	ハリグワ	D	クワ科	(針桑) 実の様な花が特徴。名の通り若い木は棘が多い。
	ハンノキ	H	カバノキ科	CO2同化作用が旺盛で砂防用に利用される。樹皮の皮目から、空気を根に送る機能があり、水中でも生育可能。湿り気のある場所に分布。かつては、堅くて腐りにくいので稲を乾燥する際の稲木に利用され、稲作とかかわりが深かった。(ハンノキの花おおき年に不作なし) (ハンノキ葉脈 7~9、ヤシャブシ葉脈 12~17、ヒメヤシャブシ葉脈 20~26)
	パンパスグラス	L	イネ科	アルゼンチン原産の多年草。ススキに似た長い線形葉、大株を作る。高さ2~3mの花茎を直立、ススキ状の円錐花序を付ける。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
	(板根 バンコン)			板状の根っ子の事で樹木が倒れるのを防止、補強する役目を持つ。
ひ	ヒイラギ	L	モクセイ科	(柎) とげとげしい葉は節分の時、イワシ(臭い)と共に魔除けに使う。鬼門の方角に植えるが成木になると葉が段々鋸歯が無くなる。ヒイラギの棘が刺さるとヒリヒリと痛む(疼 トウ: うずく、いたむ)の意から柎と書いてヒイラギと読む。
	ヒイラギナンテン	K	メギ科	(柎南天) 葉は堅く棘条の鋸歯。花が咲いている時、雄しべに触ると、雄しべが動き本能的に受粉の動きをする。(ピンセットを使うこと)
	ヒイラギモクセイ	C	モクセイ科	(柎木犀) ギンモクセイとヒラギの雑種。葉の付け根に数個ずつ集まって香りのよい白い花が咲く。葉に鋸歯。ギンモクセイは鋸歯を持たない。
	ヒサカキ	N	サカキ科	(姫榊) 雌雄異株。雄花は白、雌花は少し紫を帯びて下向きに咲く。サカキに比べ多くの実が付く。
	ヒシ	A		水草 逆三角形の実。これも害草の一つ。
	ヒトツバタゴ	P	モクセイ科	別名(ナンジャモンジャノキ) 紐の様な細い花びらが特徴(初夏)。明治神宮に植えられていたころ、木の名が分からずに呼ばれていた事から付いた名。
	ヒノキ	C	ヒノキ科	(檜) アカメガシワ、カナメモチのヘラで検皮をとる。対象は樹齢70年以降のもの、凡そ10年位で再生できる。(杉と共に日本固有木) 京大徳山試験地(検皮研究)では 8.68 Ha が文化財の森に指定されている。検皮は水を弾く力が強く多くの神社等の屋根に利用される。針葉樹の香り化学物質は、殺菌効果がありフィトンチッドと呼ばれる。ヒノキの葉裏に白い気孔があり、形が Y ならヒノキ、H(X) ならサワラと見分ける。( ヒワイ(Y) なヒノキ、サワラ ないで エッチ(H))
	(ヒバ)		ヒノキ科	まな板に最適。水を弾き物を切った時の滑りが良い。ヒノキチオールを含有しており抗菌・防かび作用がある。中尊寺の建材に利用。檜に比し成長が遅い。
	ヒムロ	E	ヒノキ科	サワラの園芸品種。
	ヒメコウゾ	H	クワ科	(姫楮) 実赤丸い。クワの実は紫色で楕円形となる。
	ヒメシャラ	J	ツバキ科	(姫沙羅) 幹肌は赤黄色(橙色)をしており アオギリ、シラカバと共に「3大美幹樹」のひとつ。花の茎は2~3cmの小さい白い花。
	ヒメユズリハ	H	ユズリハ科	(姫譲葉) 内陸性のユズリハより海沿いに多く生える。本種の方が葉や花が小さい事が名の由来。
	(ヒュウガミズキ)		マンサク科	(日向水木) トサミズキの近縁種。花は1つ(穂状にならない)。葉はトサミズキに近いがハート形。
	ヒラドツツジ	L	ツツジ科	ケラマツツジ、とモチツツジ、キシツツジが、自然交雑でできた品種。長崎県平戸市で栽培されたことからこの名がつく。
	ビロードムラサキ	B	シソ科	全体的に星状毛や羽状毛が密生する。名の通りふさふさ。
ふ	フウ	H	マンサク科	(楓) カエデとは別種。中国、台湾原産。朔果(サカ)、棘が有る集合果。棘に見えるのは花柱が残った物。翼のある種子は風で散布される。同族近似種に北米産のモミジバフウがある。吉宗が1700年代に中国から取り寄せた。江戸城にあった1本の樹の種から育った2世が、日光東照宮に植わり、2世から育った3世が、広島城に植わる。
	フッキソウ	D	ツゲ科	(富貴草) 木の高さは20から30cm。基部は木化し地下茎で群生。夏に淡黄緑色の小花を穂状に付ける。草の名が付くが草本。
	フジ		マメ科	(藤) つるは右巻き(上から見て)。花は木の上から下方の順に咲く。花穂は長い。ヤマフジは逆に つるは左巻。一斉に咲く。花穂は短い。藤色はフジの花の色。
	フデリンドウ			花の形が毛筆に似ている。
	(フユザンショウ)		ミカン科	(冬山椒) 冬でも常緑が珍しい。
	ブラジルマツ	H	ヒノキ科	幹には竹の様な環状に隆起した節がある。枝が輪生で有った名残であり、1段ごとが年輪のようになる。(自分で枝を落とすのはスギ科の特徴) 松笠に特徴があり種を樹木上で大気中に飛ばす。松ぼっくりは地上に落下しない(モミ、ヒマラヤシーザーも同じ)。松笠の棘はカギ状で引っかかりが強い。
へ	ベッコウマサキ	E	ニシキギ科	マサキに斑入りの葉をもつ栽培品種。

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
ほ	ホオノキ	H	モクレン科	(朴の木) 飛騨高山の名物・ホウバ味噌で有名。材は白く柔らかい。花は白くタイサンボクと同じく径20cmの大輪。葉は5枚、国内では最大級20～60cm。木炭も一番柔らかく ウバメガシからの炭と対局にある。この木炭で漆器、べっ甲を磨く。材は水に浸すとよく曲がるので工芸品に使う。
	ホタルブクロ	D	キキョウ科	紫、白の花。夏、茎頂の大きな鐘形を数個下垂。そのさまが提灯(火垂る)に似る。花筒に蜜を入れるのは俗説。
	ホップノキ	B	ミカン科	(一) 楕円形松毬(マツサ)状の果実。(ビールの香り付けに使うホップ(クワ科)とは別物)
	ホソバヌビワ	F	クワ科	(細葉犬枇杷) 無花果様の実を付ける。
	ホソバタブ	C	クスノキ科	
	ポポー	E	バンレイシ科	森のバター、カスタードクリームと云われる。自然に実が落ちてから食す。幻の果物、形はアケビに似る、美味しい。(南高梅は落下をネットで受け収穫する) 4月下旬ころ紫色の花が咲く。北米原産、明治時代より栽培。
	ホルトノキ	L	ホルトノキ科	(一) 街路樹に多い。平賀源内がポルトガル油(オリーブ油)の採れる「ポルトガルの木」(オリーブの木)と間違った事からこの名が付いたとされる。常緑の中に古くなり赤く色づいた葉が目立つ、しだいに落葉する。(コバンモチも同じ現象がある)
	マサキ	E	ニシキギ科	(正木) 葉はへら形で革質、光沢あり。実は薄い紅に熟し3～4つに裂ける。マサキには美しい斑入りの品種も有り和洋を問わず造園樹木に向く。
(マダケ)		イネ科	(真竹) 竹の一種で最も普通の竹。関東以南に自生する。高さは約15m、茎10cm。各節には2輪の環状隆起がある。茎、竹の皮は有用。	
マテバシイ	L	ブナ科	(馬刀葉椎) 街路樹に多い。(周南市1位:イチョウ 2位:楠木 3位:マテバシイ 全国 1位:イチョウ 2位:桜) 花穂は栗に似ており、雄しべ雌しべが混在。大き目の団栗が複数個付く。団栗の殻斗を煮詰めた糊は古文書の修復に使う。	
(マタタビ)		マタタビ科	(木天蓼) 山地に自生。葉は楕円形、夏に花(5弁)の付くころ枝先の葉が白変する。白変は空気が入る事による現象で受粉のため虫を誘う。熱湯に浸し乾燥した果実は痛風、リュウマチ、強壮に効果。食べると、又、旅が出来ると云う俗説に由来。猫類が好む。	
マツ			(松) 松の葉は「寸志」に付ける(末長くの意)。「年中青」は何時までも忘れずに御付き合いを願いますの意。「寸志」の代わりに「松葉」と書くことが有る。松笠は湿気で膨潤する。能・歌舞伎の舞台、正月の門松など縁起木。葉は2本針が基本(赤・黒松)(松葉枯れでも二人連れ)。1本針(アムカヒツバマツ)。3本針(テーダマツ)。5本針(台湾五葉、ハイマツ(這松:高山植物)。落葉樹のカラマツ(唐松)20～40本針。テーダマツ、ダイオウシヨウがマツノザイセンチュウ(松くい虫)に強いのは松脂を多量に出す事による。マツは塩分吸収能が高く海岸でも多く生育する。	
マメガキ	D	カキノキ科	(豆柿) 柿渋を採る(防水、防虫、防腐性)。葉裏が白く葉柄に毛が多いのが琉球マメガキ。柿渋で染めた茶褐色の着物を柿衣(カキ)と云う。葉に抗菌作用がある(柿の葉ずし)。幹周り110cm(砲台跡 ⇄ 2号線寄り大内駐車場間の遊歩道)、万葉の森わきには150cmの大木がある。	
マメザクラ	A	バラ科	(豆桜) 花、葉も小さく可愛い。富士山麓に多く「フジザクラ」とも云う。3月下旬～4月上旬に下向きに遠慮勝ちに咲く。桜の原種の一つ。接ぎ木の台木。挿し木で増やす。	
マユミ	D	ニシキギ科	(真弓) 昔は、此の樹で弓を作ったことが名の由来。雌雄異株で雌株の実は赤く4つに裂ける。	
マルバアオダモ	K	モクセイ科	葉は複葉で小葉(鋸歯が無いので丸葉という)5～7枚に分かれる。花は白、小花で円錐形。雌雄異株。実は翼形で付け根に種子が1個付く。	
(マルバウツギ)		アジサイ科	(丸葉空木) 葉は楕円形で縁にギザギザがある。他のウツギに比べ中央の幅が広いのが特徴。	
マルバチシャノキ	B	ムラサキ科	葉の表裏に短毛が生えている。初夏、枝先に白い花。実は径が2cm位、先端が尖る球形、重く垂れさがる。	
マンキチスギ	B	ヒノキ科		
(マンサク)		マンサク科	(満作) 山で春を告げる花木の一つ(先ず咲く)。樹形は株立ち状。花は糸様の長い2、3個の花が咲く。若い枝や樹皮は強靱で筏などを縛るのに用いた。	
マンリョウ		サクラソウ科	(万両) 江戸時代後期、この仲間のランキング付けがあり、実が一番多く成ることから名付けられた。「千両万両有り通し」とセットで植える縁起が良い。1位マンリョウ(万両)、2位センリョウ(千両)、3位カラタチバナ(百両)、4位ヤブコウジ(十両)、アリドウシ(一両)	

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				カラタチバナは花がタチバナに似ることからの名、葉は細長く全体のバランスに対し大きい。アリドウシには蟻を刺す程の鋭い棘がある。
み	幹周り			樹木の幹周り測定の基本は樹高(地上)130cmの周囲を測る。5m以上巨樹。3m以上巨木と認定(環境省データベース化、杉1万件以上、楠木6千件以上)ソメイヨシノについては青森弘前公園に5mを超える樹があり、3m以上のものは全国で200本以上登録されている。
	ミツバアケビ	N	アケビ科	(三葉木通) 葉は複葉で小葉3枚が一か所からでる(アケビは小葉5枚)。食用になる。
	(ミツバツツジ)		ツツジ科	(三葉躑躅) 葉が3枚。牛の鼻ぐりに利用。
	(ミズキ)		ミズキ科	(水木) 葉は互生。(クマノミズキの葉は対生)。水を沢山吸い上げるので、枝を切ると水が滴り落ちる事から防火用に植える。
	ミミズバイ	H	ハインキ科	花は初夏5月初め、枝に互い違いに小さくつく。やがて、実になる様子がミミズの頭が並んだように見えることが名の由来。
む	ムクノキ	C	アサ科	(棕の木) 葉の表面の葉脈がくっきり見える。実は甘く干し柿の様で食べられる。木を使って家などを作る人を木工(むく)と称したことが名の由来の一つ。黄葉を乾燥しヤスリ替わりにべっ甲を磨く。葉はエノキに似るが全体に鋸歯があり(エノキは上半分)、葉脈は鋸歯に届く。(エノキは途中で切れる)
	ムクロジ	A	ムクロジ科	(無患子) 患いのない子が名の由来。果皮に高濃度のサポニンを含み、実の外側のネバナバの殺菌作用から薬用石鹸になる。(水辺に植えサイカチ、ナンキンエゴノキも石鹸の代用)。実の中には1cmの艶のない球があり、羽根つきの玉に使う。他に、数珠の玉、昭和初期消火器の発泡剤に使用した。
	ムベ	J	アケビ科	(郁子) アケビに似ているが実は裂けない。
	ムラサキシキブ	L	シソ科	(紫式部) 花は葉柄の付け根から伸び、花が葉の上側に付く。実は4~5mmの球状。小紫色で雅な風情から茶室に生ける。
	ムレスズメ	N	マメ科	中国北部原産。江戸時代に渡来。枝に群れるように花が付く。
め	メタセコイア	C	ヒノキ科	(別名アケボノスギ) 1億5千年前に北半球で繁茂していたが、3百万年ほど前に絶滅したと思われる。1945年中国四川省で発見され、チャールズダーウィンが「生きた化石」と云い、挿し木によって世界中に広まった。(アメリカでも同時期に発見されている)日本には1949年皇室に献上され、昭和30年代に文部省が全国の学校に「生きた化石」を育てようと配布した。日本では1941年(S16年)、京大三浦教授が化石を発見した。因みに人類の出現は1万3千年前。並木は映画「冬のソナタ」で有名。落葉樹。葉は対生で偶数羽状複葉。葉が似ているラクウショウは互生。樹形はメタセコイアは直木、円錐形に対し、ラクウショウは枝を大きく張る。雄花は小葉の対生状につく。葉と葉の間毎につく蕾が、やがて穂状に成長し垂れさがる(黄褐色)。雌花は葉(枝)の先端部につく(緑色)。
	(命名法)			S34年国際命名規約でラテン語表記が基本。日本ではカタカナ表記(世界には通用しない)。植物には字数の制限なし。(競馬は9文字以内)
も	モウソウチク	H	イネ科	孟宗竹の高さ=目線の高さの直径(m)×130 竹の皮はサリチル酸(C6H4COOH(OH))を含み防腐効果がある。孟宗竹60年、真竹は120年に一度花を付ける。(花が付くと竹林は枯れる) 竹の見分け方 孟宗竹の節は1重、最下段の枝1本は雄竹、枝2本が雌竹。真竹の節は2輪状で枝の切り口に穴。淡(ハ)竹の節は2輪状で枝の切り口に穴なし。
	モチノキ	J	モチノキ科	(藟の木) 樹皮はトリモチ。花は葉の付け根に多く付く。雄花は4本の長い雄しべと花弁、雌花は花の中心が目立つ。葉は表裏とも葉脈が殆んど見えず、のっぺりとしている。雌雄異株で実は赤い。
	モッコク	E	モッコク科	(木斛) 庭木の定番。花は6~7月、下向きに咲き淡い香りがある。実は10~11月につき球形、熟すと中から赤い種子が出る。縁起木としてセンリョウ、マンリョウをモッコクの下に植える。(千両万両を持ちこむ)
	モミノキ	E	マツ科	(樅) 葉は互生で葉の先端が2本針。御柱祭で使うモミノキ 一本の重量は 8~10 Ton (長野県諏訪大社) 葉が良く似ているイチイ、キャラ、コメツガは1針なので見分け出来る。材が白く、軽い、墨の載りが良い等から棺、塔婆に使う。生産量は東京が8割と多い。代々木の大木から2世が育っており、地名「代々木」の由来 代々育つ。松笠は花軸のみ残り樹上で散る。日本だけに自生。クリスマスの飾り付けに使うモミノキはドイツウヒで本種とは別物。
				イチイ(一位:イチイ科) この木を使って官位一位の高官の笏(手にもつ細長い板)が作られたことが名の由来。 キャラ(伽羅木:イチイ科) 鳥取県大山に群生天然記念物に指定 コメツガ(米楯:マツ科) 日本だけに自生する

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
	モミジバフウ	A	フウ科	(紅葉葉楓) 北、中米原産。大正時代に渡来。葉はカエデに似るが、カエデの対生に対し交互に付く。実は多くの種子が集まり球形になる。
	モモイロハリエンジュ	E	マメ科	ハリエンジュ(ニセアシア)の造園樹木。花がピンク色で万葉の森寄りの池近くから見える。ハリエンジュ(白色)との対比が綺麗。
や	ヤエヤマザクラ	G	バラ科	野生の桜の花びらは5枚が基本(一重)、6~10枚を半八重、11~60枚を八重、60枚以上を菊咲き(中には350枚の品種もある)と云う。花びら、雄しべ、雌しべ、萼は、もともと葉が変化したもので人工的に色々な品種を掛け合わせると、其々がお互いに行き来し変種が出現する。雄しべや雌しべのうち一本が、花びらに変化すれば6枚の花びらに、2本が変化すれば7枚の花びらになる。一本の木でも一重と八重が混ざる事がある。
	ヤシャブシ	M	カバノキ科	(夜叉五倍子) N2同化作用があり、真土に生えても根をよく張る。実は乾燥するとマツカサ様になる。
	ヤツデ	A	ウコギ科	(八手) かつては、実にウジ退治の効用と、葉が大きく目隠しにもなり、厠(カヤ)の近くに植えた。葉の枚数は八つ手と云うが7、9、11の奇数。冬に咲く花は最初雄花で数日後、雌花に変身。自家受粉を避けるため同じ花で雄しべから雌しべに交代する。ハエ等により受粉し春に黒い実がつく。
	ヤブツバキ	C	ツバキ科	暖地に自生する。葉は光沢で革質。春、赤色の大輪の五弁花を開く。秋に熟す果実は蒴果、黒色の種子をもつ。
	ヤブニッケイ	H	クスノキ科	(藪肉桂) 葉は革質、一点から3本の葉脈が目立つが先端までは伸びない。裏面は灰緑、葉の下部が鈍角で葉先は丸みを帯びる。葉序はコクスギ型だが厳密ではない。
	ヤブムラサキ	I	シソ科	(藪紫) ムラサキシキブに似ている。秋に色づく実は葉の下に付き、実にも毛が生えたガクが残り、ムラサキシキブ(葉の上に花)と区別できる。
	ヤマウルシ	N	ウルシ科	ウルシ科の中でも、特に触れるとかぶれ易いと云われる。葉は小葉が連なった複葉、長さは25~50cmになり小葉は12~16枚。中央部は膨らみ先端は尖る。通常、鋸歯はなく、若い木には粗いギザギザがある。付け根に近い葉は先端部に比し小さ目。葉柄、葉軸は赤みを帯びている。実は径5~6cm、やや平らな球形で房になり、黄みを帯びた短い剛毛がある。塗料採取用のウルシは外来種。
	ヤマコウバシ	O	クスノキ科	(山香し) 葉柄が短い。冬でも紅葉した葉が残り、受験に落ちない縁起木。実(紫黒色)をつぶす、枝を折る、葉を揉むと その名の通り良い香りがする。花は4月中旬に黄緑の小さな花が咲く。雄しべに花粉を作る葯がなく、雌株ばかりで花粉を作る雄株は見つかっていない。雌株は受粉しなくても種子を作り子孫を残す稀な木である。
	ヤマザクラ	A	バラ科	(山桜) かつて、花見の対象の樹、皮目が横になるのが特徴。桜の原種の一つ。
	ヤマハギ	O	マメ科	(山萩) ハギはマメ科ハギ属の総称、普通はヤマハギ・ミヤギノハギを指す。かつて秋の花見に親しまれ、万葉集に多く詠まれた。秋の七草の一つ。
	ヤマハゼ	N	ウルシ科	ハゼノキに似ているが葉の両面に毛が生えている。
	ヤマブキ	D	バラ科	「七重八重 花は咲けども山吹のみのひとつだに なきぞ悲しき」と云う有名な歌がある。一重のヤマブキには実がつき、八重咲きのヤマブキは、雄花が花に変化してしまうので、受粉できず実がつかない。
	ヤマフジ	A	マメ科	(山藤) つるは左巻き、花穂が短く、木の根元と先端の花すべてがほぼ同時に咲く。フジのつるは右巻き、花穂が長く根元から先端へ順番に咲く。
	ヤマモモ	A	ヤマモモ科	(山桃) 根粒菌(窒素固定)をもちN2同化作用があり、花崗岩の真土に植えても良く生育する。ヤシャブシと同じく土壌が肥沃するとその能力は失われる。雄花は長さ2cm橙色~赤花の花穂をつける。(雌雄異株、風媒花なので地味な花) 実は小さな球形。
	(山口県の河川)			一級河川の数北海道に次ぎ全国で第二位。
ゆ	ユーカリ	D	フトモモ科	(一) 木の上部と下部では葉の形が違う。上部は細く、下部は広い、若木には広い葉が多い。葉の表裏で光合成する。樹皮は成長とともに、不規則な長い板状やリボン状に薄く剥がれる。精油はアロマテラピーに利用。シドニーの西100kmブルマウンテンズ国立公園(ユカリ樹海)では、太陽によって発散された精油(テンペル)の揮発成分が光を屈折させ、景色を青く見せる。精油で自動車を走行できる。ユーカリの仲間は600種位あり、ユーカリは総称。砂漠の緑化に使われるユーカリは根を深く張り乾燥に強い。日本には湿潤を好む種が植えられる。
	ユキヤナギ	A	バラ科	(雪柳) 枝に雪が積もったように見えることが名の由来。枝の節に小花が集まって咲く。
	ユズリハ	H	ユズリハ科	(譲葉) 名前から新旧交代、継承、再スタートを連想し、お正月の飾り物などに用いられる縁起木。(葉痕が特徴:若葉が伸びると古い葉が落ちた際の傷跡)

音順	品名	区	科名	樹木の特徴
				譲葉の語源（新芽が出たのを確認し古い葉を落とすことから。普通2年で葉を譲り、引継ぎ期間1年を確保）葉柄は赤みを帯びる。
	ユリノキ	C	モクレン科	（百合の木）（別名ハンテンボク）北アメリカ原産。葉が半纏の形（牛の顔にも見える）。花の形からチューリップツリーとも云う（命名は大正天皇） 花には、黄と緑の花弁にオレンジ色の蜜標があり、他のモクレン科と異なり蜜がある。カヌーの材。柔らかくて軽い。トチノキと同時期に開花する。 山口県指定の早世樹の一つ。
よ	ヨウキヒ	J	バラ科	（楊貴妃）昔、奈良地方にあった江戸時代の文献にある。東京荒川堤にも植えられていたサトザクラの一種。その美しさ、豊満さから美人の代名詞である「楊貴妃」を冠された 開花は4月中旬、大輪八重咲き（花弁 21～50枚）、淡紅色。
	ヨコグラノキ	B	クロウメモドキ科	高知県ヨコグラ山で見つかる。葉序はイソノキと同じ 二列互生のコクサギ型である。
ら	ラクウショウ	C	ヒノキ科	（落羽松）沼地に生え根元にたくさんの気根（呼吸根）を持つ。葉が互生、交互に付く。（葉は似ているメタセコイヤは対生） 羽状の葉が秋に紅葉し落ちる様が名の由来。実（松笠様）は樹上でバラケ飛散する。地上に落ちるのは稀。
	ランシンボク	D	ウルシ科	（別名 偕の木）頭が良くなる（孔子廟に植樹）。葉は対生状で先端の葉も対生（偶数羽状複葉で珍しい）。枝葉が整然と並ぶ事から、楷書の語源とも云う。 剪定では鋏をいれず、自然樹形が基本。東京の湯島聖堂、岡山閑谷学校が紅葉で有名。
	ランダイスギ	I	ヒノキ科	コウヨウザンの変種。山口県指定の早世樹の一つ。
り	リュウキュウチシャノキ	H	ムラサキ科	（琉球高苺の木）西緑地では環境が合うのか園内で広く育っている。沖縄の天然記念物であり、絶滅危惧種に指定されている。
	リュウキュウツツジ	O	ツツジ科	
	リュウキュウマメガキ	D	カキノキ科	（琉球豆柿）6月初旬 白い小さな花を付ける（花弁は赤）。葉裏が白く、葉柄に毛が多く、葉がウエイブしている。
	リョウブ	M	リョウブ科	（令法）枝先に白い小さな花が集合。木肌が美しく茶室の床柱に利用。日本での一科一属はこの樹のみ。 漢字で「令法」と書くのは平安時代、飢餓対策とし新芽を塩漬け貯蔵し寒冷地の農作物不作の時、食料とするよう法令で定めた事に由来する。
	リンボク	J	バラ科	（隣木）花は秋に咲き珍しい。雄しべが飛び出して目立つ。（同族のタカサゴイヌザクラは春に咲く）実は楕円形になり花が咲いた年の翌年に熟す。 縁に鋭い棘がある。桜の原種（サクラ亜科）の一つ。
れ	レンギョウ	B	モクセイ科	（連翹）黄色の花。トサミズキ、ヒュウガミズキとは違い4弁。樹形は株立ち。枝は長く伸び地面に付いた枝から根を伸ばす。枝の内部は空洞。

以上